

■福祉心理学科カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

心理実践力を修得するために、以下の7つの資質・能力を育てます。

- 多文化共生社会における総合的な人間理解力
  - 人の心には、人々に共通する心の特徴(一般的原理や法則)と、人それぞれの心の特徴(個人差や多様性)があることを理解できる
  - 人の心と行動は、社会・環境と相互に影響しあっており、社会・環境の影響で変わること理解できる
  - 生活場面における人の心と行動について、心理学および隣接領域も含めて、さまざまな観点から幅広く総合的に理解できる
- 根拠に基づく情報発信力
  - 心理学の方法(文献検討、観察、実験、調査、面接等)を用いて、客観的なデータを集めることができる
  - 心理学の方法で得たデータを、図や表を用いて整理し、他者にわかりやすく伝えることができる
- 批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力
  - 多様な生活場面における人の心と行動を適切に把握して分析し、より本質的な問題に気づくことができる
  - さまざまな分野の知識を柔軟に組み合わせ、多様な他者の気持ちや意見を考慮し、予防策や解決策を見出すことができる
- 多様な人々への共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力
  - 他者の気持ちや意見を共感的に理解し、対話のなかで理解を深めることができる
  - 他者の気持ちや意見を尊重しながら、自分の気持ちや意見を適切に表現できる
- 自己理解に基づくセルフコントロール力
  - 自分の気持ち、考え方、行動とそれらの特徴に気づくことができる
  - 怒りや不安等の自分の感情に気づき、ストレスに対処することができる
  - 自分の成長につながる目標を立て、やる気(モチベーション)を高めることができる
- 集団理解に基づく対人調整力
  - 集団の目標を共有し、役割を分担し、取り組む課題を明確にすることができる
  - 集団で情報を共有し、メンバーのやる気(モチベーション)に気を配り、自由に意見を出してもらうことができる
  - メンバーのやりがいや喜びを共有し、メンバーの取り組みを前向きに評価できる
- 多文化共生社会における心理学の学びを活かした社会貢献力
  - これまでの学びを統合して、多文化の人々の幸せや福祉に貢献することができる
  - 個人や社会に役立つテーマを設定し、これまでの学びを活かしながら当事者や関係者とともに課題の解決に取り組むことができる

科目カテゴリ	授業科目	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係(◎特に重要、○重要、△望ましい)								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
総合基礎科目	心理学の基礎	心理学の様々な領域についての基本的な理論や考え方に関する知識を学び、総合的な人間理解力、批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力といった要素の基礎を修得する。	1. 心理学の基本的な問いを理解し、代表的な知見を説明できる 2. 心理学の知見を日常生活の問題と結び付けて論述できる	◎	△	◎	△	△				
	統計学の基礎	講義では、統計学的なものの考え方やその初歩的な手法について解説を行います。その際、受講生の皆さんにとって、その内容が様々な情報を論理的に整理し、理解し、新たな事実を発見する際の有効な手段となるよう、身近な事例を取り上げながら講義を行っていきます。	1. 統計的思考法に基づいて身の回りにおける統計情報を分析・説明することができる。 2. 平均の特徴と解釈の際の留意点について説明できる。 3. データの「ばらつき」を理解する必要性を説明することができる。 4. 相関関係の数値的要約の方法と解釈の際の留意点を説明できる。 5. 統計法を用いたデータの一般化について説明することができる。			◎						△
専門基礎科目	心理学実験	10数名のグループ毎に、毎週異なる実験に参加しレポートを作成する。実験種目と担当者は以下に示す。 社会的影響(吉田綾乃)、自動運動(佐藤俊人)、概念学習(中村修)、認知的葛藤(大関信隆)、鏡映描写(平川昌宏)、情報伝達の変容(山口奈緒美)、感覚弁別(河地康介)、系列学習(柴田理瑛)、ミュラー・リヤー錯視(半澤利一)	1)実験法自体の手法や、心理学方法論における実験法の位置づけを説明できる。 2)「独立変数」や「従属変数」などの意味や、「要因操作」や「条件統制」という行為の意義を説明できる。 3)基本的な心理学の実験を自ら計画し実施することができる。 4)実験から得られるデータを適切に収集、処理することができる。 5)実験結果を適切に解釈し、基本的な科学的レポートを作成することができる。	○	◎	◎	△		△			
	心理学研究法	心理学研究法は、心理学の方法論について総合的な理解を図るための講義と実習からなる授業である。観察法と調査法、データ分析実習を中心に、心理学的研究の具体的な方法について理解と習得を目指す。特に調査法では調査内容の決定からデータ収集そして分析までの一連の作業をグループワークを取り入れながら実施してもらい、受講生の積極的な取り組みを望む。	1. 観察法・調査法の内容や特徴を説明でき、心理学研究に活用できる。 2. 問題意識に基づいて仮説を立案することができる。 3. 質的データおよび量的データの分析ができる。 4. 研究成果を報告書にまとめることができる。 5. 心理学研究における倫理を守ることができる。 6. 積極的にグループワークに参加し、自他の考えを尊重しながら話し合うことができる。	○	◎	○	○		○	○		
	心理検査法実習	心理検査法は、心理査定(アセスメント)の基本となる技法であり、心理学の臨床的応用である。この実習においては、まず具体的な方法についての理解を目指し、個人に対するデータの収集から分析までの一連の作業についてワークを取り入れて実施してもらい、同時に心理検査を実施する際の倫理的な配慮についても修得する。	面接法・発達検査・知能検査・投射法・質問紙法・作業検査法それぞれの内容や特徴を説明できる。 得られたデータの分析ができ、結果を報告書にまとめ、研究や個人差の理解に活用できる。 心理検査や研究における倫理を守ることができる。	◎	○	△	◎	○				△
	心理学概論 中村	心理学の基礎的な知識、理論、考え方を習得するとともに、その視点を日常の問題に活用できるようにすることを目的とする。	1.心理学の主要分野を概観し、それぞれの研究アプローチの相違について説明できる。 2.心理学で用いられる基礎知識、基本的概念を理解した上で、日常的用法との違いを説明できる。 3.ある特定の行動について、心理学を構成する諸領域の知識を用いて複数の観点から考察できる。	◎		○			○			

福祉心理学 平川	「福祉」とは、個々の人々が自身の人生をより良く幸福に生きること、または、属する社会の中でその人らしさを発揮しながら豊かで充実した生活を送ることと見え、支援する営みであると考えられます。本講義ではこのような営みに関連し、実践する上でヒントとなるような心理学的知見を紹介します。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「人の幸福で充実した生活とはどのような生活か？」という問いに対して、心理学の概念や用語を用いて自身の考えを述べる。さらに、それを促す経験や支援の方向性について述べる。さらに、それを促す経験や支援の方向性について述べる。</li> <li>2. より良い自分とのかかわり方・人や社会とのかかわり方について心理学の概念や用語を用いて自分の考えを述べる。さらに、それを促す支援の方向性について述べる。</li> <li>3. 人生の各時期の発達課題、さらに発達障害児の直面しうる「生きづらさ」について説明することが出来る。そして、自身がかわる人たちの発達課題を念頭に置きながら支援の内容について考えることができる。</li> <li>4. 心理検査やカウンセリングについての理解を深め、心理的支援の方法について説明することができる。</li> </ol>	◎	○	○	○	△	◎	
生涯発達心理学概論 中村	生涯発達の視点から、主として人間関係に注目しながら乳児期から老年期までの発達の様相を概観し、心理的支援への活用について考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 自分自身の現在の存在が、これまでの発達の歴史の上にあることを理解できる。</li> <li>2 発達のプロセスの中で、何らかの心理的支援を必要とする親子に対する支援の方向性を自分で考えることができる。</li> </ol>	◎		○			○	
臨床心理学	臨床心理学の基本概念を理解し、それに基づいたアセスメント・見立て及び心理療法について深く学ぶ。そして、人間研究がどのように行われているかその特質についても理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 臨床心理学の基本的概念を説明できる。</li> <li>2. 人間研究の基本的視点や注意が必要について、説明できる。</li> <li>3. 臨床心理学の視点からの対応における可能性と危険性について説明できる。</li> </ol>	◎	◎	○	◎			
社会心理学	社会心理学の観点から人間の心的過程および社会的行動のメカニズムについて理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会心理学における根本的な考え方と主要な理論について説明できる。</li> <li>2. 客観的に自己や他者、それらを取り巻く状況について説明することができる。</li> <li>3. 社会心理学の理論や知見に基づいて、人間行動と社会の問題について考察することができる。</li> </ol>	◎		○		○	△	△
人格心理学	感情と人格について、心理学的視点からのさまざまな理論・とらえ方を学び、その応用について考える。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感情に関する理論及び感情喚起の機序について概説できる。</li> <li>2. 感情が行動に及ぼす影響について概説できる。</li> <li>3. 人格の概念及び形成過程について説明できる。</li> <li>4. 人格の類型、特性等について概説できる。</li> <li>5. 臨床的問題について、力動論、交流分析、自己理論、学習理論、認知論などの観点から説明できる。</li> </ol>	◎		○		△		
教育心理学概論B	教育では以下の事柄が重要になる。1)「学び」と「育ち」の関係を理解し、「育ち」に応じた教育、「育ち」を促す教育を行う。2)「学び」のプロセスと意欲について理解し、そのプロセスを支える。3) 学習者の主体的な学び、学習者同士の学び合いのプロセスを支える。4) 教師と生徒、生徒集団など「学び」の場での対人関係の特徴を理解し、生徒の「育ち」や「学び」を促す学級集団を形成する。5) 自身の教育を評価し、教員としての専門性を高めていく。本講義では、以上の観点に立ちながら教育心理学の知見を概観していく	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「育ち」と「学び」との関係、「育ち」に応じた「学び」の必要性、「育ち」を促す「学び」について説明できる。</li> <li>2. 乳幼児期から青年期の各時期における発達の特徴と発達課題、さらには環境移行において生じる問題について説明することができる。</li> <li>3. 「学習」および「動機づけ」について学び、「育ち」を促す環境や働きかけについて具体的に述べる。ことができる。</li> <li>4. 学習者の主体的な「学び」について説明することができる。また、学習者の主体的な「学び」や学習者同士の専門性を高めていく。本講義では、以上の観点に立ちながら教育心理学の知見を概観していく</li> <li>5. 教育における学級集団作りの必要性、さらには、そこでの教師の役割や影響について説明することができる。</li> </ol>	○		○	△	△	△	◎
知覚・認知心理学	人間は、外界の事象、自分や他者の状態など多種多様な情報を受け取り、行動を選択し、外界に働きかけながら生活しています。このような情報のやりとりを可能にする感覚・知覚・注意・記憶といった「こころ」の様々な機能を理解し、さらにはその機能を実現するための脳・からだのメカニズムを理解することを目標とします。そのため、本講義では、錯覚・錯覚のデモンストラーションや心理学実験環境の実験に加えて、最新の脳科学的知見をおりまぜながら「こころ」を外観します。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活の中で体験する「こころ」にかかわる現象を知覚・認知心理学の立場から考察できる。</li> <li>2. 近年様々なメディアで取り上げられている心理学や脳科学に関する話題を理解・評価できる。</li> </ol>	○	◎	○				△
認知心理学	認知心理学に関するテーマから、主に視覚認知や注意といった分野の代表的な理論を理解することで、認知心理学が私たち人間の理解にどのような貢献をしているかについて学ぶ。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 認知の基本的な仕組みについて理解する。</li> <li>2. 実験結果を図表をもとに読み解くことができる。</li> </ol>	◎		○		○		
学習心理学	学習心理学に関するテーマから、主に条件付けや記憶といった分野の代表的な理論を理解することで学習についての総合的な理解を深める。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学習や記憶の基本的な仕組みについて理解する。</li> <li>2. 実験結果を図表をもとに読み解くことができる。</li> <li>3. 学習による認知様式の変容について理解する。</li> </ol>	◎		○		○		
心理統計学の基礎	心理学の様々な領域において、研究を進めるうえで統計学の知識が必要となる場合が多い。本講義では、心理学論文を読んで情報抽出したり、実験、調査、観察などの計画や結果の分析を行った際に、利用頻度の高い統計学の知識を学習する。基礎となる本講義では、仮説、帰無仮説、対立仮説、作業仮説などの仮説検定において重要な諸概念の役割を学習しながら研究計画の立て方、仮説検証の論理などについての理解を深めてもらう。	心理統計学の基礎となる本講義では、研究計画の立て方、仮説検証の論理などについて学び、そのプロセスの中での仮説、帰無仮説、対立仮説、作業仮説などの仮説検定において重要な諸概念の役割を学習しながら、論文を構造的に読解できることを目標とする。	○	○	○				
心理実践活動論	心理実践活動に携わる講師の講話と質疑応答を通して、心理実践の現場にあるさまざまな問題、心理学を活かした取り組みを学び、心理学の理論(知識、技能)と実践のつながりを体験や討論をとおして理解する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会における主な心理実践活動の内容を知り、それらの特徴について述べる。2. 人間と社会における様々な問題について調べ、心理学と関連づけて述べる。3. 心理実践とその基盤となる心理学との関連について述べる。3. 心理実践とその基盤となる心理学との関連について述べる。</li> </ol>	◎		○		△	△	

■福祉心理学科カリキュラムマップ

ディプロマポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

心理実力を修得するために、以下の7つの資質・能力を育てます。

- 多文化共生社会における総合的な人間理解力
  - 人の心には、人々に共通する心の特徴(一般的原理や法則)と、人それぞれの心の特徴(個人差や多様性)があることを理解できる
  - 人の心と行動は、社会・環境と相互に影響しあっており、社会・環境の影響で変わること理解できる
  - 生活場面における人の心と行動について、心理学および隣接領域も含めて、さまざまな観点から幅広く総合的に理解できる
- 根拠に基づく情報発信力
  - 心理学の方法(文献検討、観察、実験、調査、面接等)を用いて、客観的なデータを集めることができる
  - 心理学の方法で得たデータを、図や表を用いて整理し、他者にわかりやすく伝えることができる
- 批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力
  - 多様な生活場面における人の心と行動を適切に把握して分析し、より本質的な問題に気づくことができる
  - さまざまな分野の知識を柔軟に組み合わせ、多様な他者の気持ちや意見を考慮し、予防策や解決策を見出すことができる
- 多様な人々への共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力
  - 他者の気持ちや意見を共感的に理解し、対話のなかで理解を深めることができる
  - 他者の気持ちや意見を尊重しながら、自分の気持ちや意見を適切に表現できる
- 自己理解に基づくセルフコントロール力
  - 自分の気持ち、考え方、行動とそれらの特徴に気づくことができる
  - 怒りや不安等の自分の感情に気づき、ストレスに対処することができる
  - 自分の成長につながる目標を立て、やる気(モチベーション)を高めることができる
- 集団理解に基づく対人調整力
  - 集団の目標を共有し、役割を分担し、取り組む課題を明確にすることができる
  - 集団で情報を共有し、メンバーのやる気(モチベーション)に気を配り、自由に意見を出してもらうことができる
  - メンバーのやりがいや喜びを共有し、メンバーの取り組みを前向きに評価できる
- 多文化共生社会における心理学の学びを活かした社会貢献力
  - これまでの学びを統合して、多文化の人々の幸せや福祉に貢献することができる
  - 個人や社会に役立つテーマを設定し、これまでの学びを活かしながら当事者や関係者とともに課題の解決に取り組むことができる

科目カテゴリ	授業科目	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係(◎特に重要、○重要、△望ましい)								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
専門基幹科目A群	環境心理学	環境心理学は「人間」と空間や場所などの「環境」との関係を中心に考察する領域です。環境は人間の生活に様々な影響を及ぼす一方で、同時に人間の行動が環境に多大な影響を及ぼしています。このような、人間の心理と環境の相互作用に関する研究を具体例を交えながら示し、人間と環境とのよりよい適合を実現するための考え方を学びます。	1)環境が人々にとってどのような意味をもつものなのか、多面的に説明できる 2)人間と環境の相互浸透について具体例を挙げて論じることができる 3)適切な住まい、労働環境、教育環境について、理論を用いて説明することができる 4)環境問題の改善策について、心理学的理論を用いた考察ができる	◎		◎					◎	
	生涯発達心理学各論	乳児期から青年期前期までを対象とし、主として乳幼児の能力と家庭・社会環境を関連づけながら発達の問題点を探るとともに、子どもの問題行動として扱われることの多い攻撃性に焦点を当てながら子育て支援のありかたについて考える。	1 子育て支援の実例に触れることにより、発達や行動に不安を感じさせる子どもの行動と、親の心理状態について考えることができる。 2 「気になる行動」をする乳幼児に対して、具体的に心理的支援の計画を立てることができる。	◎		○					○	
	教育心理学各論	学校カウンセリングの基本的な知識や問題のとらえ方を学び、具体的な支援技法を習得する。小・中学校現場で子どもが直面している問題解決のためのアセスメント(問題分析)・支援計画・介入方法に焦点を当てた実践的な授業を行う。授業では、事例を用いてアセスメントの手法とチーム支援の方法を学び、グループ討議を通して支援計画を策定する。	①学校臨床で生じる問題を説明できる ②学校不応とは何か説明できる ③学校適応支援の方法を説明できる	○		◎						△
	健康心理学概論	健康を支援する活動では「不健康状態の解消」だけが目標となるのではなく、「今ある健康をそのままに」あるいは「よりもっと健康に」という目標への関心が高くなってきている。そもそも、健康である者はなぜ健康なのだろうか？健康な者は不健康になる要因が「ない」だけなのだろうか？それとも他の何かがあるのだろうか？本講義では心理学の新しい分野である健康心理学の知見とその社会への適用・応用について概説していく。なお、健康支援・保健活動の具体的な場面として災害・震災での例を取り上げることがあるので注意してほしい。	1.健康心理学の基本概念を習得し、他の心理学領域との差異を説明できる。 2.ストレスと心身の関係について概説できる。 3.健康を促進する要因を複数指摘することができる。 4.さまざまな保健活動において必要な支援について説明できる。	◎		○		○	○	○	○	
	心理統計学の応用	心理学の様々な領域において、研究を進めるうえで統計学の知識が必要となる場合がたいへん多い。本講義では、心理学論文を読んで情報を抽出したり、実験、調査、観察などの計画や結果の分析を行った際には、利用頻度の高い統計学の知識を学習する。また、学習した知識の実践的利用可能性を高めるべく、統計解析ソフトによる実習も行う。応用編となる本講義では、利用頻度の高い統計的検定をいくつかピックアップし、統計解析ソフトの操作手順や結果の読み方・記述の仕方など、コンピュータを使って実践的に学習する。さらに、多変量解析の初歩についても触れる予定である。	1)心理学の論文を構造的に読解できる 2)研究目的にあった実験計画、統計的手法をつかって、心理学の論文、レポートを作成できる	○	○	○						○
	家族心理学	家族心理学の理論と知見、家族面接の基本姿勢、家族面接の技法を学ぶ。これらを通じて、総合的な人間理解、問題発見・解決力、コミュニケーション力を修得する。	1. 家族をシステムとして説明することができる 2. 家族に生じる危機、援助のポイントを説明することができる 3. 家族を対象とする心理支援と、個人を対象とする心理支援の違いについて説明することができる	◎	△	◎	○					

<p>乳幼児心理学</p>	<p>乳幼児期とは胎児期と生まれてから小学校に入るまでの時期を指す。この時期は、子どもが自身を取り巻く人的・物的環境とのやり取りを通して心身ともに大きく発達する時期であると同時に、以後の発達においてその基礎となる重要な時期であると考えられる。この講義ではこのような時期の子どもの心身の特徴および発達のメカニズムについて、さらには乳幼児期の発達支援の機軸となるトピックについて発達心理学の知見に基づきながら概観する。</p>	<p>1) 生涯発達という観点から乳幼児期の特徴について説明することができる。 2) 新生児の持つ能力や乳児期における養育者と子どもとのやり取りの特徴について説明することができる。 3) アタッチメントについて、さらには、アタッチメントの生涯発達における意味について説明できる。 4) 乳幼児期の知的・認知能力、言語、自己と感情といった諸側面の発達、さらには、社会的広がりとその意味について説明できる。 5) 乳幼児期の子どもを持つ保護者の支援や発達の偏りのある子どもに対する支援といった乳幼児期における支援課題と対応の仕方について自分なりに述べることができる。 6) 乳幼児期の子どもの発達について、発達しつつある人としての「共通性」と乳幼児期としての「差異性」という観点から整理することができる。</p>	◎	○	△										○
<p>児童青年心理学</p>	<p>生涯発達心理学の中で、児童期と青年期における主要な精神機能の発達の姿と特徴、発達にかかわる要因やそのメカニズムを論ずる。児童期・青年期で示される種々の行動や状態について一般的傾向を把握するばかりでなく、歴史的な意味づけの変遷なども取り上げ、環境との関わりの中で自己意識や精神機能がどのように変化し、安定した自己形成へと統合して行くのかをたどって行く。</p>	<p>1. 児童期と青年期の過程や発達課題が意味できることを、具体的な行動と関連付けて論述することができる。 2. 得られた知識に基づいて、自分のこれまでの体験を意味づけで整理できる。</p>	◎	○		◎	○								
<p>老年心理学Ⅰ</p>	<p>生涯発達心理学的観点からそれぞれの発達段階の課題を理解します。また加齢に伴う身体の変化と支援のあり方について考えていきます。</p>	<p>人間の成長と発達を生涯発達心理学的見地からとらえることができ、生涯にわたる人間の発達を体の変化や機能の変化の面から理解できる。</p>	○	○	○										○
<p>老年心理学Ⅱ</p>	<p>認知機能の変化や感情、人格の変化、対人関係や心の健康などの心理学的問題を幅広く理解します。特に認知症の問題に重点を置き、ケアのあり方を具体的に理解します。高齢期と取の問題に関しては、心理とケアのあり方について具体的に考えていきます。授業ではアクティブラーニングのTBLを取り入れて理解を深めていきます。</p>	<p>①認知機能や感情、人格、対人関係などの心理学的変化を系統的に理解できる。 ②高齢期に多い認知症の問題に関して、疾患の特徴や心理的特徴、ケア、家族に対する支援など、心理社会的支援の方法を具体的に理解できる。 ③高齢期の死の問題について、その心理とケアのあり方について自分なりに考えることができる。</p>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<p>産業心理学</p>	<p>産業心理学とは、産業に関連する生活場面における人々の行動を、個人的・環境的諸条件との関連において研究する学問です。商品やサービスを提供する側の心理と、それらを消費する側の心理の双方から、今日の産業に携わる人々の心理を探ります。</p>	<p>1)組織成員の心理について、ワークモチベーション、キャリア発達、ジョブ・ストレスといった観点から説明できる 2)企業組織における人々の心理について、意思決定や公正といった観点から説明できる 3)消費者行動の背後にある心理プロセスについて説明することができる</p>	◎												◎
<p>感性心理学</p>	<p>「感性」をどう定義するかは異論の多いところであるが、「感性」といわれる心の働きは、個人の人格のベースとなり、結局はその人の行動のユニークさを決定する要因の一つとなる。この「感性」は個人の遺伝的素質や生活史に基づく面と、文化としてその民族の先人から伝えられる面もある。本年度は、先ず人間の成長・発達過程で、感性の開花を促し、人としての豊かさと奥深さを形成していく基盤となる環境条件の検討を行い、さらに日本人特有の感性を創出した要因を、我が国独自の文化の世界に求める。</p>	<p>絵画、音楽、舞台芸術、文学、工芸品など、人の感性に訴えるものは、その人の好みによって大きく異なるものである。この個人の好みを超えて、日本人特有の感性、西歐など他の文化圏にある人々の感性について理解を深め、国際的センスを身に付けることによって、自分自身の感性を豊かにするとともに日本の文化を説明できるようになることが目標である。</p>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<p>色彩と心理</p>	<p>色彩は私たちの生活に潤いを与えてくれるものである。また、コミュニケーションの手段として色彩を用いることによって、さらに多くの情報を伝えることができる。この授業では、色彩の基礎理論を学ぶとともに、ツールとして色彩を用いる知識を身につける。また、日本の伝統色を知ることによって、日本人の感性のルーツを知り、私たち日本人により適合した環境色彩を学ぶことができ、さまざまな状況に合わせた色彩環境を実現することができる。本講義では、そのためにより具体的な情報を提供する。</p>	<p>1. 表色系を学び、色彩用語でのコミュニケーションができるようになる。2. 環境色彩を学び、自宅や職場などの色彩環境を改善できるようになる。3. 季節に合った衣服の色を組み合わせなど、生活への応用ができるようになる。</p>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<p>感性情報処理論</p>	<p>これまでのコンピュータでは、人間でも難しいチェスとか定理の証明のような課題はかなりうまくできるが、人間が簡単に、直感的に行うことができる好き嫌い、快不快の判断といった基本的な心理過程の実現はなされてない。またアニメに登場する鉄腕アトムのような人型ロボットはまだ身近にはあられてない。その最大の理由として、明示的な記号の直列処理を前提としたコンピュータの限界があげられる。ところが、人の身体やコミュニケーションでは、多様性に富み、明確な定義をしにくい内容を含む情報が巧みに処理されている。この授業では、そのような感性情報処理の特異性について学習する。</p>	<p>知性と身体の間で、いわばクッションとしての機能をもつ感性情報処理の特性を的確に学習し、情報化社会、少子高齢化社会における種々の問題緩和に応用できるようになる。</p>	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
<p>発達臨床心理学</p>	<p>現代社会が抱える子どもや青年、成人の病理を考える場合、従来の臨床心理学的な知見・方法論に加え、その根拠を支えるものとして、対象者の発達の側面に関する理解が不可欠となってきています。そこで本講義では臨床心理学と発達心理学の双方の知見を背景とした「発達臨床」という領域について、総合的な理解を深めることを目的とします。</p>	<p>1. 人の発達ステージ毎の心理学的意味を説明できる。 2. 各ステージ毎に、そこで経験する可能性のある心理学的病理と発達との関連性を説明できる。 3. ライフステージごとの心理的危機に対して、援助モデルを自身で組み立てることができる。</p>	○	○	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎
<p>思春期の発達と臨床</p>	<p>思春期の身体的発達の特徴とその心理的影響について理解する。そして、思春期の心理的発達課題と心理的危機について理解する。また、思春期に多く見られる心の問題について理解し、その対応について学ぶ。さらに、思春期の子どもを持つ家族への心理的援助について学ぶ。</p>	<p>1. 思春期の身体的発達の特徴とその心理的影響について説明できる。 2. 思春期の心理的発達課題について説明できる。 3. 思春期に多く見られる心の問題について、その症状と子どもの心理、心理的課題をとらえることができる。 4. 思春期の子どもを持つ家族への心理的援助について、方針を立てることができる。</p>	◎	○											



解剖生理学	ヒトは60兆個の細胞から構成され、グループごとに互いに協調、協力して生命活動を維持していることを学びます。それらの系(システム)の連携に視点をおき、人の生命活動について総合的に理解するとともに、わかりやすく説明できるようになることをめざします。人体の構造とその機能を理解することは、人の健康の維持や牽せ「福祉」について考察し、適切なサービスの提供を考える場合に大きな意義を持ちます。高齢者、障害者の身体機能・精神機能についても理解を深め、わかりやすく説明できる力を身につけましょう。	①人体の解剖学的構造についてイメージでき、説明できるようになります。 ②人体の構造をもとに、それらの機能についてわかりやすく説明できるようになります。 ③人の健康の維持、人の病気について考察するための基本的な知識を身につけ、説明できるようになります。	○	○	○	○	○	○
生理学	ヒトの体の機能を学びます。人体の構成要素を、機能を担う一連の系(システム)として捕らえるとともに、細胞レベルの機能まで理解を深めることを通じて、生命の本質について考えます。また、上記の到達目標を達成するように、視聴覚教材や過去の研究データの検討を行うことを通じ、単に知識の詰め込みではない日常生活や将来の仕事に活用できるような理解を促します。	ヒトの生理的機能についての基礎的な知識を得るとともに、以下のことを到達目標とします。 ・生理的機能についての知識をもとに、多様な生命現象や実験結果を理解し、説明できる。 ・生理的機能についての知識をもとに、病的状態を診断することができる。 ・病的状態を改善するための方法を考察することができる。 ・自身自身や家族など身近な人の体調を把握し、健康維持のために配慮することができる。	○	○	○	○	○	○
衛生学	国民一人ひとりが、健やかで心豊かに生活できる活力あふれる社会を作り上げるためには、これまで中心に行われていた二次予防から一歩予防に重点を移した健康づくり対策を協力的に推進しなければならない。このような状況に鑑み、公衆衛生・衛生学的に学んでいく。	環境問題に興味を持つようになる 感染症(インフルエンザなど)の拡大抑制について説明できる	○	○	○	○	○	○
微生物学	私達は微生物と密接な関係がある。例えば微生物は体に侵入し病気を引き起こしたり食物を腐敗させ私達を悩ませる。一方、地球上の物質循環や環境の浄化、発酵食品や医薬を作ってくれるなど私達の生活を支えている。この両面性を考えると「微生物との共存が如何に大事であるか」ということに気づく。毎年感染症が流行し、時に環境を越え重症化する。その原因は何か？私達はこの問題を冷静に捉え考察できる力が必要である。そのためには微生物を理解する必要がある。本講義では微生物の基礎知識、自然界での役割、感染の基礎、食中毒の基礎、予防対策を学ぶ。また、微生物実験を通して微生物の存在を意識し、衛生学的考察と予防意識を高める。	(1)微生物を理解し、人との関係性を考えることができる。 (2)感染症を引き起こす病原性微生物の種類と特徴、臨床的症状を理解し、他者に説明できる。 (3)環境と微生物の関係を意識し、健康的な生活を送るための予防対策を考察することができる。 (4)生命、環境、食糧、社会の諸問題に興味を持ち、総合的に考える力を養う。	○	○	○	○	○	○
看護学	看護の対象は病人ばかりではなく、健康保持・増進するための援助活動も看護領域である。養護教諭として児童・生徒の心身の健康管理と保健指導を行うにあたり、現社会における児童・生徒のさまざまな課題の多様化に、どのように対応すべきかを考えることができる。	1.養護教諭としての基礎的な知識と看護技術を身につける 2.学校看護を実践するために法律や各部門・部署との連携を理解する 3.健康問題を持つ児童・生徒を理解し適切な援助を理解する 4.疾患を持つ児童・生徒への看護、健康問題に応じた援助方法を理解する 5.養護教諭としての救急看護・救急処置を理解する	○	○	○	○	○	○
専門基幹科目 し・心群	大学で求められる基礎的な態度・姿勢・能力を養うため、「大学共通講義」「学科共通講義」「クラス講義」の三形態で実施する。「大学共通講義」では、建学の精神や防犯、防災知識、リエゾンレポートオリオ、認知症など東北福祉大生として習得すべき内容を、「学科共通講義」では将来の専門に必要な基礎を、「クラス講義」では協働行動と学修のあり方を学ぶ。円滑な学生生活や学業に必要な資質、関係性を育て、プレゼン力も修得する。PBL学修やこれらの学びを通して、学生生活のみならず、社会人として必要な力の基盤を構築する。	教養の知として在学中にめざすこと八つを以下に挙げてある。 本授業の到達目標は、その各テーマについて、課題への取組とリエゾンレポートオリオを用いて、主体的な学修に取り組み、ふりかえることができるようになることにある。 ①リエゾン・ドリルなどを活用して高校教育までの知識・理解を整理した上で、本学の建学の精神・教育理念に基づき大学行事に意義を理解して参加することで感性を育み、それを他者に整理して説明できるようになり、併せて社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観を養うようになる。 ②一年次の基礎教育と二年次以降の専門教育をリエゾンし包含するキャリア教育を少人数制の能動的学習によって学び、大学生活を卒業後の就業社会、キャリア形成につなげる視点で送ることができるようになる。 ③規則正しい生活と心身の健康習慣、学修時間の確保・管理と学修習慣、キャンパス・マナーと防犯、防災・滅災の知識、挨拶・礼儀など、大学生としての態度・志向性を身につけ、生活の自己管理デザインや健康向上行動を主体的自立的にこなすことができるようになる。 ④ゼミ生、本学生、教職員、地域の人々など、学内外の多様なひととの「リエゾン」を築くことができるようになる。 ⑤論理的思考など、個々の専攻の専門性にとらわれない幅広い領域を対象とした大学の学びの基礎となる「教養の基礎知」を総合的に体験し、その知識・理解を深め、述べるようになる。 ⑥ノートの取り方やレポートの書き方などの学習スキルや汎用的スキル、コミュニケーション能力、伝える力の基礎、自律的学修態度を修得し、活用できるようになる。 ⑦⑥を基にして、自己理解、将来展望描写、キャリア形成に取り組み姿勢を身につけ、社会に貢献することができるようになる。 ⑧「地域」の課題など学科毎に定めるテーマについてグループでさまざまな観点から探究し、論理的に考え、課題を発見し、討議し、解決していく統合的な学習経験を体験し、創造的思考を決定することができるようになる。	○	○	○	○	○	○
リエゾンゼミⅠ	大学で求められる基礎的な態度・姿勢・能力を養うため、「大学共通講義」「学科共通講義」「クラス講義」の三形態で実施する。「大学共通講義」では、建学の精神や防犯、防災知識、リエゾンレポートオリオ、認知症など東北福祉大生として習得すべき内容を、「学科共通講義」では将来の専門に必要な基礎を、「クラス講義」では協働行動と学修のあり方を学ぶ。円滑な学生生活や学業に必要な資質、関係性を育て、プレゼン力も修得する。PBL学修やこれらの学びを通して、学生生活のみならず、社会人として必要な力の基盤を構築する。	①リエゾン・ドリルなどを活用して高校教育までの知識・理解を整理した上で、本学の建学の精神・教育理念に基づき大学行事に意義を理解して参加することで感性を育み、それを他者に整理して説明できるようになり、併せて社会の構成員としての自覚・責任感・倫理観を養うようになる。 ②一年次の基礎教育と二年次以降の専門教育をリエゾンし包含するキャリア教育を少人数制の能動的学習によって学び、大学生活を卒業後の就業社会、キャリア形成につなげる視点で送ることができるようになる。 ③規則正しい生活と心身の健康習慣、学修時間の確保・管理と学修習慣、キャンパス・マナーと防犯、防災・滅災の知識、挨拶・礼儀など、大学生としての態度・志向性を身につけ、生活の自己管理デザインや健康向上行動を主体的自立的にこなすことができるようになる。 ④ゼミ生、本学生、教職員、地域の人々など、学内外の多様なひととの「リエゾン」を築くことができるようになる。 ⑤論理的思考など、個々の専攻の専門性にとらわれない幅広い領域を対象とした大学の学びの基礎となる「教養の基礎知」を総合的に体験し、その知識・理解を深め、述べるようになる。 ⑥ノートの取り方やレポートの書き方などの学習スキルや汎用的スキル、コミュニケーション能力、伝える力の基礎、自律的学修態度を修得し、活用できるようになる。 ⑦⑥を基にして、自己理解、将来展望描写、キャリア形成に取り組み姿勢を身につけ、社会に貢献することができるようになる。 ⑧「地域」の課題など学科毎に定めるテーマについてグループでさまざまな観点から探究し、論理的に考え、課題を発見し、討議し、解決していく統合的な学習経験を体験し、創造的思考を決定することができるようになる。	○	○	○	○	○	○
リエゾンゼミⅡ(心理学基礎演習)	リエゾンゼミで学んだ学習スキルと問題発見・解決学習を踏まえ、担当教員の専門領域と学生の興味・関心に基づき、心理学の専門を深めるための基礎となる知識の習得と深化を進める。	1. 専門を深めるための基礎となる文献や資料を読解し、疑問点について調べ、考えたことを資料としてまとめ、発表できる 2. 課題について、心理学の観点から、文献を調べ、調査を行い、多角的・論理的に考え、解決について発表できる	○	◎	◎	○	◎	◎
リエゾンゼミⅢ(心理学演習Ⅰ)	担当教員の専門領域と学生の興味・関心に基づき、心理学の専門知識の習得と深化を進める。	1. 専門領域の文献を読解し、理解したことを資料にまとめあげ身につけることができる 2. 課題として扱う事項に対して論理的に疑問を持ち、自ら調査・研究することができる 3. 作成した資料をもとに、わかりやすい報告ができる	○	◎	◎	○	◎	◎

リエゾンゼミⅣ(心理学演習Ⅱ)	担当教員の専門領域と学生の興味・関心に基づき、心理学が扱う諸問題について、独自の視点をもって追及する。	1. 独自の視点かつ検証可能な形式の研究課題を組み立てることができる 2. これまでに学習した心理学の専門技法をもちいて、研究課題に取り組み発展させることができる。	○	◎	◎	○	○	◎	◎
卒業論文	心理に関するテーマについて、仮説をたて、それを実証～論文としてまとめる。テーマを決定し、先行研究の文献研究、そして仮説から研究計画をたててデータ分析～論文作成という一連の作業を行う。	1. 自らの研究課題を明確にできる。 2. 研究課題を検証するために、研究計画を立てることができる。 3. 研究を実施し、論文として適切にまとめることができる。	○	◎	◎	○	◎	◎	◎

■福祉心理学カリキュラムマップ

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

心理実践力を修得するために、以下の7つの資質・能力を育てます。

ディプロマ・ポリシー(卒業認定・学位授与の方針)

心理実践力を修得するために、以下の7つの資質・能力を育てます。

- 多文化共生社会における総合的な人間理解力
  - (1)人の心には、人々に共通する心の特徴(一般的原理や法則)と、人それぞれの心の特徴(個人差や多様性)があることを理解できる
  - (2)人の心と行動は、社会・環境と相互に影響しあっており、社会・環境の影響で変わること理解できる
  - (3)生活場面における人の心と行動について、心理学および隣接領域も含めて、さまざまな観点から幅広く総合的に理解できる
- 根拠に基づく情報発信力
  - (1)心理学の方法(文献検討、観察、実験、調査、面接等)を用いて、客観的なデータを集めることができる
  - (2)心理学の方法で得たデータを、図や表を用いて整理し、他者にわかりやすく伝えることができる
- 批判的・創造的思考に基づく問題発見・解決力
  - (1)多様な生活場面における人の心と行動を適切に把握して分析し、より本質的な問題に気づくことができる
  - (2)さまざまな分野の知識を柔軟に組み合わせ、多様な他者の気持ちや意見を考慮し、予防策や解決策を見出すことができる
- 多様な人々への共感と自尊心に基づくコミュニケーション力
  - (1)他者の気持ちや意見を共感的に理解し、対話のなかで理解を深めることができる
  - (2)他者の気持ちや意見を尊重しながら、自分の気持ちや意見を適切に表現できる
- 自己理解に基づくセルフコントロール力
  - (1)自分の気持ち、考え方、行動とそれらの特徴に気づくことができる
  - (2)怒りや不安等の自分の感情に気づき、ストレスに対処することができる
  - (3)自分の成長につながる目標を立て、やる気(モチベーション)を高めることができる
- 集団理解に基づく対人調整力
  - (1)集団の目標を共有し、役割を分担し、取り組む課題を明確にすることができる
  - (2)集団で情報を共有し、メンバーのやる気(モチベーション)に気を配り、自由に意見を出してもらおうことができる
  - (3)メンバーのやりがいや喜びを共有し、メンバーの取り組みを前向きに評価できる
- 多文化共生社会における心理学の学びを活かした社会貢献力
  - (1)これまでの学びを統合して、多文化の人々の幸せや福祉に貢献することができる
  - (2)個人や社会に役立つテーマを設定し、これまでの学びを活かしながら当事者や関係者とともに課題の解決に取り組むことができる

科目カテゴリ	授業科目	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係(◎特に重要、○重要、△望ましい)								
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		
専門発展科目 A群	福祉心理学特講	(H30年度開講せず)										
	臨床心理学特講	フロイトの生涯を振り返りながら、精神分析の基本的な考えについて理解する。 フロイトの弟子や現代の精神分析についても講義する。	精神分析が症状や心をとどのようにとらえるのかを精神分析の理論、フロイトの実際の症例を通して、理解することを目標とする。	○			◎	◎				△
	生涯発達心理学特講	(H30年度開講せず)										
	社会心理学特講	葛藤は対人間から国家間まで、さまざまなレベルで見られる現象です。この現象はどうして生じるのか、その解決を妨げる要因は何なのかについて、社会心理学的観点から考察します。人々はしばしば不合理な認知や信念にとらわれ、自ら建設的解決の道を開き、自ら葛藤や紛争のよりよい解決について論じることができるとして、葛藤とその解決に関する人々の心理を学びます。	1)対人葛藤や紛争の発生の背景にある人々の心理的メカニズムを説明することができる。 2)対人葛藤や紛争の種類を分けて説明することができる。 3)対人葛藤や紛争のよりよい解決について論じることができる。	○			◎	○	◎			△
	心理学実践研究実習	心理実践力を身に付けるための方法の一つとして、心理学の調査・実験の進め方について、具体的な方法を理解する。	1、研究のための心理学的テーマを探し出し研究計画を立てることができる。2、得られたデータを分析し、結果をまとめ考察し、レポートを書くことができる。	○	◎	◎						○
	精神医学	精神医学は、生物学的次元、心理学的次元、社会的次元といった多次元に亘る医学であることを特徴のひとつとするが、精神医療は医学・医師だけでは事足りず、他分野・多職種との連携において初めて成立する領域といえる。本講義は、精神医療を構成する一分野としての臨床精神医学の基本的な考え方をみなさんと共有することスタンスを置き、多次元に亘る知識を具体的かつまとまりのよい形で提供したいと考えている。無論、知識で現象が割り切れるわけではないが、そこに生じている価値をも手がかりとして、精神障害をかかえて生活する人々の現在をどう支えていこうかを考えていきたい。	本講義では、こころの病や障害の成り立ち、あらわれ方、なおし方、ささえ方などに関する基本的な知識を、なるべく具体的にわかりやすく伝えることを心掛けて講義します。そして、精神医学に自分なりの興味を持っていただき、かつ、精神医学と精神保健のひとつの全体像として理解ができるようになることを目標とします。	○		○	○	○	○			
	児童精神医学	乳幼児期および児童期における精神医学の基礎を理解するため、発達障害、心因性疾患および精神障害について教授する。思春期の精神疾患の基礎知識も教授し、子どもの虐待についても精神医学的観点から検討を加える。地域精神医学的視点も加味して教授する。 また必要に応じてアクティブ・ラーニングを行なう。	児童期に見られる精神疾患の概念を理解し、説明できる。	○		○			○			



	健康心理アセスメント概論	健康心理学におけるアセスメントの目的・方法・対象について、臨床心理学的アセスメントとの共通点、相違点に触れながら概説する。また、実際に被験者体験をすることで、目的や対象に適した方法の選択について理解を深め、倫理的配慮の必要性についても理解する。	1.健康心理学におけるアセスメントの目的、倫理的配慮を含めた留意点について説明できる。 2.健康心理アセスメントの対象における必要な概念について説明できる。 3.健康心理アセスメントの対象に適した方法を選択できる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
	健康心理カウンセリング概論	健康心理学は「健康の維持・増進に関する心理学的研究、およびその専門的応用」の学問であり、疾病の改善もさることながら、その前段階として疾病の予防もまた重要である、という考えに基づきます。本講義ではカウンセリングという視点からどのような健康心理学的アプローチが可能であるかについて、その基礎的事項を探究します。	1.カウンセリングの基本的な構造や流れについて説明することができる。 2.健康心理カウンセリングで用いる種々の技法について、その意義や概要を説明することができる。 3.実際に幾つかの健康心理学的技法をやってみることができる。	○		○	◎		○		○
	健康心理カウンセリング実習	健康心理アセスメントと健康心理カウンセリングに関する実習を行う。アセスメントにおいては、健康心理相談や介入、治療効果の測定等に用いる諸技法についての実習を含む。カウンセリングにおいては、カウンセリングの基本的技法を理解した上で、認知行動カウンセリング、交流分析、自律訓練法、プリーセラピー等の技法を組み合わせて介入・指導できるための実習を含む。	1.取り上げられる各技法における基本的な手法を使用することができる。 2.支援的関わりにおける自己の癖や得手・不得手を意識化し、受容することができる。 3.実践において必要とされる専門性を実習体験を用いて説明できる。	○		◎	◎		○		○
	心理療法概論	心理療法は、精神分析、クライエント中心療法、行動療法の3つを中心に様々な方法がある。それぞれの基本的な考え方、実践方法を学び、理解することを目的とする。	1.心理療法についてそれぞれの心理療法の背景となつている最低限必要な理論を説明できるようになる。 2.心理療法の実践的知識を習得し、将来実施する時に使用できるようにする。3.心理療法の実施者としてクライエントへの態度を習得する。	○			◎		○		○
	心理療法各論	理論以外の心理療法の実際の側面を重点的に扱う。専門家としての倫理、基本的態度、面接構造、基本技法、心理療法の過程などである。	1.心理療法についてそれぞれの心理療法の背景となつている最低限必要な理論を説明できるようになる。 2.心理療法の実践的知識を習得し、将来実施する時に使用できるようにする。3.心理療法の実施者としてクライエントへの態度を習得する。	○			◎		○		○
専門発展科目 B群	健康相談活動(理論及び方法)	養護教諭の健康相談において必要となる基本的な理論について学びます。心と体の両面に視点をおいた「見立て」「支援」の方法および流れを学びます。また、この授業を通して「養護教諭の行う健康相談の独自性とは何か」について考え、各自の答えを見つけます。	1.養護教諭の健康相談において必要となる基本的な理論について説明できる。 2.心と体の両面に視点をおいた「見立て」「支援」の方法および流れについて説明できる。 3.養護教諭の行う健康相談の独自性について各自の考えを文章化できる。	◎		◎	◎		◎		◎
	健康相談	保健室には心因性の様々な症状を訴える子どもが来室し、その中には養護教諭の健康相談の範囲を超えた支援を求められるケースもある。養護教諭の健康相談は他の職員や専門機関につなぐ役割も担っているといえる。しかし「つなぐ」には、どのような理由で「つなぐ」とするのかが、心身の状況と背景にある問題を見極める必要がある。そこで、本講義では心理的な見立てを中心に理解を深め、見立てを生かした関わり方およびつなぎ方の実際について事例とロールプレイを通して学んでいく。自傷や母子分離がテーマとなる架空事例を用いる。	事例を提示された際に、情報を整理して見立てを行い、養護教諭としての対応や連携、配慮点について文章化することができる。自他を尊重した話し合いを通して積極的に問題解決やロールプレイに取り組むことができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	
	救急処置及び看護法	学校生活場面で起こった健康障害に対し、健康を回復させ学習場面に復帰させられるよう基本的な知識・技術を学ぶ。さらに、様々な症状の観察からアセスメントができ、適切な対応ができるための知識・技術を学び判断力を養う事をめざす。学校現場のみならず、生命の危機に陥るような場面では心肺蘇生等の救命処置を施すことができる。養護教諭課程の「看護学臨床実習」においても基礎知識として必要の高い授業内容を組み込んで理解を深めていく。	①養護教諭に依頼された事象が緊急性のある状況か、経過観察および養護教諭対応のレベルで良いのかを判断できる。 ②知識・技術を習得し必要に応じた適切な対応ができる。 ③学校場面のみならず、生命の危機に陥るような場面での心肺蘇生法等の救命処置を施すことができる。	○	○	○	○	○	○	○	○
	看護学臨床実習の事前事後指導	専門職者の医療ケアの実践を見学体験の中から、「総合的な人間理解力」や「共感と自己尊重に基づくコミュニケーション力」の修得を目指します。	①実習施設の概要・特色を理解したうえで実習計画が立案出来る ②実習に必要な基本的看護技術について、目的・方法を理解し実施できる ③実習後レポートをまとめることで、実習の成果や自己課題、課題目標について考察出来る。 ④実習の学びの成果として実習報告書をまとめ、発表出来る ⑤グループ活動を通して学びを共有し、自己尊重・連携・協同の意義を理解できる。	○	○	○	○	○	○	○	○
	看護学臨床実習	看護学臨床実習は、医療現場の実際を見学・体験することによって、患者・家族の生活や心身の状況を理解するとともに、医療チームを構成する各専門職者の役割や機能等について学ぶ、貴重な体験学習となります。医療現場での予防・判断・対応・連携がどのように行われているのか学び、養護教諭としての役割・活動に繋げて考察できるよう指導していきます。	①健康を害した人々の心身の状態及び機能的変化が理解出来る。 ②臨床現場における専門職の役割・機能が理解出来る。 ③臨床現場における安全管理の在り方から教育現場における安全管理について考察出来る。 ④専門職者の具体的なケアの方法や各関係機関との連携について理解出来る。 ⑤実習を通して養護教諭としての役割・活動のあり方を考察出来る。	○	○	○	○	○	○	○	○
	教職実践演習(養護教諭)	この演習では養護実習を振り返り「養護」とは何かについて問い直します。「養護」に必要なことについてディスカッションを通して概念化します。また、災害時の心のケア(事例)や避難所運営の実態(調査報告)に触れ、「自分でできること」を考えます。POCAの手法を通して振り返る力、集団の力を感ずる力を身につけます。さらに、他大学の学生の実践学習に触れることで「養護」についての学びの共通項を探り、まとめて各自の「養護の原理」あるいは「養護観」をグループで共有し、KJ法によりまとめて発表します。	1.養護実習および講義における体験を振り返り、学び得た教訓を文章化することができる。 2.「養護」の本質を問い直し、自分にとっての「養護」について概念化し、プレゼンテーションを行うことができる。	◎		◎	◎		◎		◎

